

先ほど司会者からも案内がありましたように、私たちは先週の金曜日から対面の集会を開始しております。これからはどなたでも来ていただくことが出来ますので、またどうぞ、この場所までお運びいただいたらと思います。来ていただくと個人的にお話が出来ますので、私もすごく発見が多いですね。

日曜日に来られた方と少しお話しして「どちらから来られたんですか?」「ケニアからです。ナイロビで聞いてます。」ケニアって、喫茶店のケニアじゃなくて(ケニアの王様という喫茶店が昔ありまして)、マサイ族のケニアということで、そんなところでも聞いてくださっているのかとビックリしたのです。

その2年前、あまり見かけたことのない方々が数人いらっしゃったので少し話をしたら盛り上がり、「どちらで働いてるんですか?」「アマゾンです。」「私、よく利用してますよ。」「いやいや、ブラジルのアマゾン。」「ピラニアのアマゾンですか!」「いや、ブラジルです。」

それから、3年前にイスラエルに行きましたが、ポーランドでアウシュビッツ収容所を見学してイスラエルに入ったんです。その時、ポーランドでも聞いているという方がおられて、ぜひ会いたいということで、『シンドラーのリスト』のあのシンドラーの家の前で待ち合わせをして、聖書の話をしたのを覚えています。

とにかく、アフリカでも南米でも東ヨーロッパでも、世界の色んなところで日本人が活躍して、祖国を遠く離れたところで奮闘している方々に聖書のメッセージをお届けできるのは、本当に光栄なことだと思っています。思っていますが、折角この場に来てくださった方々は、もし分からない点がありましたら、個人的に時間を取りますから、ぜひ終わった後で質問なさってください。私の分かる範囲でお答えしたいと思いますし、また私でなくても、周りのクリスチャンに声を掛けて、今日の解説などに質問があれば聞いていただいたらと思います。とにかく有意義な時間になったらいいなと願っております。

さて『ざっくり黙示録』、もう27まで行ったんですね。今日は**黙示録 15 章**。

15章は黙示録の中で1番短い章なんです。だから、いつもは前半と後半で分けてるけど、今回は1回で全部やり切ります!で、黙示録15章に入る前に、月に1回なのでざっと復習したいと思います。

「人類はやがて7年間の患難時代に向かっている。患難時代に入る」と申し上げていますが、患難時代について特に詳しく語っている箇所が**黙示録 6 章から 19 章**です。

6章から19章は原則 時代順に並んでいます。6章は患難時代に入った頭(直後)の部分。

19章は患難時代の最後。だから、6章から19章に向かって、ほぼほぼ時代順に語っているのです。

が、4か所だけ挿入箇所があるんです。4回だけ話の腰を折るといふか挿入箇所があって、これからの時代順のことを紹介する前に、その当事者たちの特徴や役割を前もって紹介するんですね。

それによって、時系列の説明が始まった時にスッと頭に入るようになってる。

だから、「黙示録は難しい」と言うけど、実は構造が分かると、読者が分かるように分かるようにと書いてあることがよく分かります。

黙示録は前半 3 年半と後半 3 年半に分けることができます。

後半に起こる事件というのが、大きく分けると 7 つあるんです。7 つの事件の中で主役のような役割を果たす 7 種類の当事者が出て来る。それについての説明が 12 章から 14 章で、これは既に終わりました。この 7 種類の当事者のことを予備知識で持っていることによって、後半の説明に入った時に「ああ、ここに結び付くのか」と分かるんですね。

12 章から 14 章の当事者たちの解説が終わって、今日はいよいよ 15 章ですから、本格的に後半 3 年半のことが語られて行きます。15 章からの預言は究極の神の怒り・究極の神の憤りの裁きについて書いてあって、聖書全体の中で最も恐ろしい箇所。それが始まって行きます。

音楽用語のクレッシェンド (<)。強弱記号ですね。“次第に強く”の意味。

“次第に弱く”はデクレッシェンド (>)。

クレッシェンドは初め小さな音で段々大きくしていく。ますます大きく強くしていく。

黙示録の裁きはクレッシェンドなんです。つまり、終わりになればなるほど、近づけば近づくほど、裁きの内容がいよいよ広範囲に深く激しいものになる。そのピークが“7 つの鉢”と言われている裁きの内容なんですね。“7 つの鉢”は次回 16 章で出て来ますので、その時に具体的な内容について触れたいと思います。

15 章の内容をざっくり言うと、ヨハネは天での 2 つの光景を見るんです。

①患難時代後半に殉教した人たちが、天国で楽器をかき鳴らしながら神を賛美している・礼拝している光景。②神の怒りを蓄えた鉢を、7 人の御使いたちが 1 人 1 つずつもらう。これがぶちまけられるのが 16 章ですが、与えられる姿を見る。

今日は 15 章を 3 つのポイントでまとめたいと思います。今日言いたいのは 3 つのことです。

- 1) 神の極限の怒りの理由は何か。なぜ神は究極の怒り (7 つの鉢) をぶちまけられるのか。
- 2) 酷い殺され方で殉教した人々が天国で行っているのは賛美と礼拝ですが、なぜ彼らは歌っているのか。喜びではちきれんばかりに歌っている 彼らの喜びの理由は何か。
- 3) 7 つの鉢を持った 7 人の御使いが天の神殿から出た後、神殿は神によって立ち入り禁止になります。なぜ天の神殿が、大患難時代後半 3 年半の時に立ち入り禁止になるのか。

## 1) 神の究極の怒りの理由について

1. また私 (ヨハネ) は、天にもう一つの大きな驚くべきしるしを見た。  
七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。ここに神の憤りは極まるのである。

天とは神がいる場所です。もちろん神は遍在される方なので、この空間にもおられるんですよ。でも、神の王座がある場所、第 3 の天とかパラダイスとか言われているところ、いわゆる天国。そこで「神の裁きが準備完了状態になりました」と語っているのですが、ここで言いたいのは「世界を裁く権威は天にあるのですよ。」これから始まる 7 つの災害は偶然ではない。たまたまではない。明確な神の意思に基く怒りの裁き。「それは天で決定され準備完了段階です」と言っているのですね。

しかも、次回詳しく言いますが、“7 つの鉢の裁き”は後半 3 年半を掛けてじっくり断続的に…ではなく、短期間に矢継ぎ早に起こるもののようです。描写の仕方がそうなっています。

1 つ目と 2 つ目の鉢の間にかかなりの時間があるのではなく、ごく短期間にダダダ！と 7 連発下る。そんな感じがします。

神の極限の怒りがなぜ下されるのか？ 裁きの対象である地上の状態・帝国・様子をひと言で言うと、反キリスト帝国なんです。反キリスト帝国はどんな特徴を持っているのか？

2. 私は、火が混じった、ガラスの海のようなものを見た。獣とその像とその名を示す数字に打ち勝った人々が、神の豎琴を手にしてガラスの海のほとりに立っていた。

ここに、殉教者たちが戦っていた・苦しめられていたその国の特徴が書いてあります。  
獣とその像とその名を示す数字。患難時代にキリストを信じた人たちは、この3つと戦っていたんです。

獣は反キリストですが、ここでは主に反キリストの政治的支配。彼は独裁者・政治家で、もっと言うと King of Kings として振る舞うんですね。

その像とは宗教的支配。反キリストのかたちにかたどった偶像がエルサレム神殿に安置されますが、“その像はものをいうことさえも出来るようにした”と書いてあるんですね。

その名を示す数字とは経済的支配。反キリストの名前をヘブライ語にして数字換算すると 666 になり、この数字を持っていない者は売り買い出来なくなると書いてあります。

政治的にも宗教的にも経済的にも、1人の人物が全人類を自由自在にコントロール出来るような体制を作り上げたら、それに抗うのはほとんどの人は出来ないと思いますね。ある特別な恵みがなければ出来ないと思います。

このことをイメージしていただくのにどうしたらいいかなと色々考えたのですが、昔読んだ本を少し思い出したんです。以前もご紹介したことがあります。『北朝鮮14号管理所からの脱出』という白水社から出ている本があるんですよ。1回読んで もう忘れられない本です。

北朝鮮から韓国に逃げて来た人たちのことを脱北者と言います。北を脱出して来た人たち。脱北者には色々な方がいますが、1番厳しい政治犯収容所から自力で脱出して韓国に辿り着いたのはこの本の主人公、申 東赫（シン ドンヒョク/1982-）さんだけです。

政治犯収容所は大きく分けて2つあります。1つは再教育目的で革命化区域という所にあり、反省して本当に首領様に忠誠を誓うように洗脳・改造できる見込みがある人物はそちらに入る。もう1つは完全統制区域という所。仮釈放なんか一切ない。死ぬまで強制労働でこき使われる。その敷地から一步も出ることは出来ない。

申という人物はここに入れられたんじゃないで、ここで生まれたんです。つまり父親も母親も政治犯。この政治犯収容所の中ではしばしばリンチがあって命を落とす。管理者に目を付けられたら、とてもじゃないけど生き延びれない。そこで、父親も母親も非常に模範囚を演じるんですね。模範囚ということで囚人同士の結婚が許可される。これを表彰結婚と言います。1番厳しい政治犯収容所で出産があって、生まれたのが申という男性。お兄さんと弟の自分。

生まれた時から教師に徹底的に教え込まれるのは、“できそこないの親から生まれたおまえはできそこないである。できそこないのおまえが出来る唯一の建設的なことは、首領様に絶対に歯向かわないことである。この強制収容所ではいつくばって、徹底的に命令に服従する生き方をするだけがおまえに出来る1番良いこと。”

幼少期からの重労働で、彼の腕は湾曲してるんです。ある時お腹が空きすぎてね、工場でミシンを運んでいて落としてしまったんです。それを保衛員に見られた瞬間「おい、来い！」と言って、即 中指切断。その本を読むと、その拷問の中身がね、エゲツナイ。僕 1 回しか読んでないです。気持ち悪い。

この拷問で心がへし折られて、この国の支配者には絶対に勝てないということが刷り込まれるんです。この国の王に逆らうことは絶対に不可能であると叩き込まれるんですね。政治的支配。

更に経済的支配。強制収容所の中の食料は全部配給です。わずかな配給で生き延びなければならない。申さんは物心ついた時から、お母さんは生存競争のライバルだったそうです。ある朝 お母さんが働きに出た後、お昼ご飯にと取ってあったトウモロコシのお粥を、空腹のあまりお母さんの分まで平らげてしまった。母親が帰って来て自分の分がないのを見て、烈火のごとく怒るんですね。彼を思い切り殴りつける。しかしどんなに殴られても、彼は機会を伺って、チャンスがあればお母さんの分を平らげたそうです。折檻（せっかん）と空腹だったら折檻の方がマシ。

これは全部、北朝鮮当局の人間コントロールの方法なんですね。おまえたちの経済的命・食料を持っているのは我々である。今よりもっと減らすことだって出来るんだぞ、という。それが北朝鮮の収容所ではなく、世界的スケールで実施されるんでしょう。経済的支配です。

しかし、本当に怖いのは宗教的支配なんです。これは内面の、心の中の問題ですよ。ある時 教師から家に帰れと言われるんです。いつもは寄宿舎にいたのですが、しばらく活動があるから家に帰れと。家に帰ると、なんと いるはずのないお兄さんがいる。今労働時間なのに家にいる。セメント工場から逃げ出したんですね。もし労働を途中で放棄して家に帰った・さぼったということが分かれば処刑ですよ。どうなるんだろうとドキドキしていた。

夜になったら、お母さんとお兄さんがヒソヒソ話をしてるんです。耳を澄まして聞いていると、なんと脱走プランを練っていた。お母さんはその晩、滅多に見たこともない白米を、お兄さんのために炊いて食べますですね。

彼はお父さんもお母さんもお兄さんも寝静まるのを待って、夜中の 1 時にコツソリ抜け出し、警備員の所に行き「僕のお母さんとお兄さんが脱走プラン練ってます」と密告するんです。実のお母さんとお兄さんを売った！そしてこう言ったんです。「この情報を持って来たので、僕に食料と学年代表の特権下さい。」彼は報告だけして家に帰ると、お母さんもお兄さんもいない。彼が次にお母さんとお兄さんを見るのは 7 か月後です。公開処刑の現場で。

密告したのは 13 歳の時ですよ。14 歳になってまだ 10 日も経ってない時に お母さんが絞首刑、お兄さんは銃殺。お母さんは吊るされる前に一生懸命 弟息子を探します。もちろん家族全員集められている。収容所の人間が全員集められている。お母さんは自分を売った息子を一生懸命探すのですが、彼は目を合わせる事が出来なかった。「申し訳ないことをした！」違うんです。その時の彼の気持ちはね、「首領様に逆らうこんな酷い罪を犯すなんて、なんて恥さらしだ！」

この時 彼は 2 人を恨んでいた。密告したにもかかわらず、「おまえらも脱走しようとしてるんじゃないか？」と嫌疑を掛けられて、お父さんと彼は 7 か月間にわたって拷問を受けたんです。その拷問は、逆さ吊りに吊り下げられて下から火あぶりですよ。ありとあらゆる種類の拷問を受けてね、「母と兄があんなバカなことをするから、俺は良いことをしたのに 7 か月間こんなに辛い目に遭ってる。悪いことをした奴が罰を受けるのは当たり前だ」という恨みの思い。

なぜ責めを感じずに肉親を売り飛ばしたのか？ 彼の心の中が完全にマインドコントロールされているんですね。北朝鮮の独裁者を神のように崇める言わば人工宗教。それによって完全に屈服させられてるんです。だから、売ったことよりも、彼らが脱走しようとしたことに恥ずかしさを感じるという。それが世界的スケールで、もっと徹底して行われたら恐ろしいですね。

今 彼は反省しています。自ら顔出しして、先日ドキュメンタリー映画に出ていました。彼は韓国に来たことによって、今まで自分が生まれ育って聞いて来た世界観と全く異なる世界観・異なる世界がある。異なる善悪の基準がある。本当の世界がある、ということに初めて気がつくんです。そしたら何が起こったか。北朝鮮にいた時以上に自責の念でのたうちまわって…。なんと恐ろしい世界。そんなことが今でも隣の国で続いているのに、独裁者たちはのうのうと生きている。誰も裁くことが出来ない。

ところで、なぜ彼は目が覚めたのか？ 今まで自分が聞いて来たのと違う世界観を持って生きている人々と触れることによって、自分はおかしな世界にいたんだと目が覚めたんですね。どんぐりの背比べみたいな、自分と同じような考えの人たちしかいない密閉空間を出て、正常な価値観を持っている人たちと触れ合うことによって自分の異常さに気がついた。

この患難時代、政治的支配・宗教的支配・経済的支配の反キリスト帝国に生まれ育った人であったとしても、反キリストは二セモノで、その正体は悪魔的人物だと知るチャンスが十分に与えられているんです。3つのもので。

①14万4千人のユダヤ人たちが全世界に出て行って、「今 独裁者として振る舞っているあの人物は、聖書が語っている獣であり不法の人であり反キリスト、悪魔の代理人なんだ！」とその正体を暴くと同時に、イエス・キリストを信じることだけが救いの道であることを宣べ伝えるんです。

②御使いが“永遠の福音” というのを宣べ伝えるんですね。聖書の常識から考えると、天使が福音を伝えるというのはちょっと分かりにくいかもしれません。

数年前の話ですが、時々、イスラム国の中でクリスチャンになった人のニュースがありましたね。あのイスラム国ですよ。後藤健二さんを処刑したあのイスラム国ですよ。そのテロリストの中でクリスチャンになった人たちが出て来て、もちろん覆面してインタビュー受けてましたけど。

「どうやってイエス・キリストを信じたんですか？」「夢。」「ゆめ?!」日本の21世紀のハイテクノロジー文化の中で「そんなバカな！」と思うかもしれませんが、神のなさることを人間の先入観で狭めることはよした方がいいと思いますね。神様は何でもお出来になる方です。

この終わりの時代（患難時代）においては、永遠の福音といわれる福音を、御使いが世界中の人たちに聞かせている。14章に書いてありました。

③患難時代に14万4千人のユダヤ人伝道者たちによって信じ 救われたクリスチャンは何億人もいます。誰にも数えることが出来ないほど多くの人々が、この時代にキリストを信じて救われている。黙示録にそう書いてあります。その人たちからも、御国の福音を聞くことが出来るんですよ。

更にもっと言うならば、今自分の周りでは、黙示録に書いてある預言通りのことが次々に起こっている。次に何が起こるのかは黙示録を持っていたら分かるわけで、書いてある通りのことが実現していく。信じるに足る根拠を こんなにたくさん得ることが出来る時代はないと思いますよ。

「反キリスト情報しか聞くことが出来ないの、洗脳されてしまって判断できませんでした」という言い訳が絶対に出来ない。

十分に福音を聞くことが出来る。福音を聞いている。そして聖書預言が成就する時代に生かされている上で、創造主に明確に反逆し、ナザレのイエス・キリストを拒否し、反キリストに従った人たちに対する裁きなんです。これは、既に回帰不能地点を通り過ぎたということなんです。

もう少し言うと、反キリスト帝国のことをバビロンと言います。

**獣**：政治的支配のバビロン（政治的バビロン）は 16 章で壊滅します。

**その像**：宗教的支配のバビロン（宗教的バビロン）は 17 章で壊滅します。

**その名を示す数字**：経済的支配のバビロン（商業的バビロン）は 18 章で壊滅します。

17 章は本当に凄いことが書いてあるんです。またその時に、ご一緒に考えたいと思いますが。

結局 “7 つの鉢の裁き” は何かというと、地上から悪を一掃する神の働きです。これが神の究極の怒りの理由です。反キリスト帝国に対する神の正義の怒り。これが “7 つの鉢の裁き” だと言えらると思います。

## 2) 殉教者たちが歌を歌う理由について

2. 私は、火が混じった、ガラスの海のようなものを見た。獣とその像とその名を示す数字に打ち勝った人々が、神の豎琴を手にしてガラスの海のほとりに立っていた。

反キリスト帝国に打ち勝った。彼らは地上では酷い殺され方をしたので敗北者と見なされているんですね。しかし神の観点で見ると、「いや 勝ったんだ、彼らは。政治的支配・宗教的支配・経済的支配の3つの次元のプレッシャーがのしかかってくるにもかかわらず、彼らは屈することがなかった。」

反キリストに対抗する唯一の方法は、本物のキリストを信じ 受け入れるということなんです。クリスチャンはある意味、超自然的な人々だと思います。イエスを信じるというのは、私たちが思っているよりはるかにスゴイことですよ。

悪に対抗する唯一の道は、善なるキリストを自分の内側に迎え入れるということです。サタンに対抗する唯一の方法は、キリストを主として受け入れることなんです。彼らは自力で、自分の意思の力で反キリストに抗ったのではなく、キリストが、キリストを信じた人たちの上に力を与えたので乗り越えて行くことが出来たんです。

ところで、まず彼らはどこにいるのかを確認したいと思います。  
ガラスの海のようなものを見た。ようなものだから、ガラスの海じゃないです。  
人々が、神の豎琴を手にしてガラスの海のほとりに立っていた。  
ほとりには、他の聖書を見ると “上に” と書いているので、ガラスの海の上に立っていた。

ガラスの海とは何か？

4:6 御座の前は、水晶に似た、ガラスの海のようなものであった。

そして、御座のあたり、御座の周りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

御座の前には2つの特徴がありますね。1つは水晶に似た、ガラスの海のような地面です。

もう1つは四つの生き物（セラフィムという御使い）がいた。これが御座です。

御座とは何か？ 神の玉座がある所。天国の奥の間。天国の最も重要な場所。神の王座がある場所。

ガラスの海があるのは神の王座がある場所。その上に立っているということは、この殉教者たちは天国の最も奥の間、最も神に近い場所に立っているということです。

15章に戻って、彼らは酷い死に方をして、最高に素晴らしい所にいるということですよ。

クリスチャンなのに酷い亡くなり方で世を去る方、いないわけじゃないでしょう。

キリストを信じているのに十代で亡くなった人とか、これから伝道旅行に行こうとしているのに酒酔い運転の車に突っ込まれて亡くなったとか…。

私が尊敬する宣教師 ウィリアム・ボーデン (1987-1913) はイスラム伝道のためにエジプトに行きますが、そこで髄膜炎になって3か月で亡くなりました。なんでなん？

神に逆らって打たれた、じゃないんです。神を信頼しているにもかかわらず、なんでこんな酷い死に方、まだまだ若いのに命を取られなければならなかったのか。そんな不可解なことがあります。

そういうのを見た時、残された人たちの心の中に傷が残りますね。

「なんでなん？」「かわいそうな…」「神様、なんという…何を考えておられるのか…」

残された人たちは殉教者たちを見て「ああ、かわいそうに…」と思ったかもしれませんが、ここを見ると、殉教した当人たちは神の豎琴を手にして、3.彼らは神のしもべモーセの歌と子羊の歌を歌った。

本人たちは楽器と歌で、そして神の1番そば近くで、喜びいっぱい神を礼拝していると言うのです。

私たちは次の世界が見えないので、今見ている自分の尺度だけで、幸せとか不幸とか勝手にレッテル貼りやすいけど、最後にどこにいるのかということが1番大事なことですよ。

■なぜ彼らが喜びの歌を歌ったのか、理由を3つ挙げたいと思います。

①キリストの真実と正しさが、この上もなくハッキリと分かるから

3. 彼らは神のしもべモーセの歌と子羊の歌を歌った。「主よ、全能者なる神よ。あなたのみわざは偉大で、驚くべきものです。諸国の民の王よ。あなたの道は正しく真実です。」

主・全能者なる神・諸国の民の王はキリストのことです。

あなたの道は正しく真実です。聖書を見ると、悪魔は確かに存在するんですよ。

悪魔が常に人間の心に訴えていることがあります。それは「神は正しくない！ 神は不真実！ 神は不誠実！ 神が愛なら、なぜこんな事が起こるのか！」神に関して暗い疑念を抱かせるように、人々の心に訴えるんですよ。「神はいない。いたとしても不誠実。不誠実じゃないとするなら、やる気がないか無能力だ！ そんなものを当てにするのはやめろ！」ということですよ。

実は大きな犯罪を犯す人って皆、最後の一線を越える時は破れかぶれです。

まだね、守るものがある場合はそのために思い止まるけど、守るものがない・生きてたって何にも良いことがない・世の中に信じられる存在はどこにもない、となると人間は簡単に絶望します。

絶望した人間は思い切り酷い事をやりますね。

絶望の根源にあるものは、「この不正がまかり通っている世の中、真実はどこにもない。真実の働きかけなんかどこにもない。真実をちゃんと見ている方なんかどこにもいない。神なんか無いのも同じ」という不信仰、これが人間を絶望に駆り立てるのではないのでしょうか。

道はオドイという言葉で複数形です。“道”にはいずれの言語でも“方法”という意味もあるんですよ。

日本語でもありますよ。英語でもWayは方法。

「あなたの諸々の方法は、地上にいてる間は“なぜこんな事を許されるのか”と意味が読めずに分からなかったけど、今天国に立って、神の観点で見た時に分かったことがあります。全部正しい。主よ、あなたは全部正しい。全部真実でした。あなたは正しく、真実で誠実で良い方でした。」  
これが一点の曇りもなく「そうなんだ！」と味わえる時、歌が出て来るんです。これで良かったんだというね。

②7つの鉢の裁きによって、地上でやりたい放題の限りを尽くしている反キリスト帝国が壊滅するから  
4b. あなたの正しいさばき（これから繰り出される7つの鉢の裁き）が明らかにされたからです。

「もうこれ以上 不幸をばら撒く悪魔の帝国が生き延びる余地は1秒もない。地上から悪が残らず払い除けられる時が来た！」この正義への希求が完全に満たされるその瞬間がもう間もなく来る、ということが分かった時、彼らは歌わずにいらなかったのです。

③反キリスト帝国が排除された後、千年王国（メシア王国）が実現するから  
3. 彼らは神のしもべモーセの歌と子羊の歌を歌った。

子羊の歌というタイトルの歌は聖書の中に出て来ないんです。恐らく 子羊に向かって歌っている歌があって、黙示録5章に出て来ますが、今日は時間がないのではしよります。

モーセの歌は申命記32章。ここはモーセが死ぬ直前に、イスラエルの歴史のスタートから人類歴史の最後に至るまでを見通して、長い歌を唱えるんです。全部で1節から43節まであります。

32:43. 国々よ、御民のために喜び歌え。主がご自分のしもべの血に報復し、ご自分の敵に復讐を遂げて、ご自分の民とその地のために宥め（なだめ）を行われる。

国々は異邦人の国々。御民はキリストを信じているユダヤ人。  
御民のためにと書いてありますが、ヘブライ語では御民とともにと訳すことも出来るんですね。

なぜ喜び歌えるのか？ 主がご自分のしもべの血に報復し、ご自分の敵に復讐を遂げて、ご自分の民とその地のために宥めを行われる。

これは「キリストの地上再臨の時に反キリストの軍隊を完全に壊滅させ、それから千年王国が来ますよ」と、未来について語っている言葉なんですね。

これを頭に入れながら、もう1度 15:4 主よ、あなたを恐れず、御名をあがめない者がいるでしょうか。あなただけが聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。

主・あなたは地上再臨したキリストのことです。地上再臨後、キリストはエルサレムの王座に着かれますが、毎年仮庵（かりいお）の祭りの時に、諸国の民が都上り（みやこのぼり）してキリストを礼拝しに来る。すべての国々の民は来て、あなた（イエス）の御前にひれ伏します。  
これは千年王国（メシア王国）のことを語っているんです。

つまり、なぜ彼らは歌っているのかというと、単に悪が消滅するだけではなく、それに代わって、エデンの園が完全回復したような地上天国の千年王国が、もう手の届くところまで来ているからです。

もう少しの忍耐で、旧約聖書がずっと預言し続けて来たあの約束の千年王国が実現する。

この限りなく良いところに向かって刻一刻と近づいている喜びが、彼らの歌を生んだと言えると思います。

### 3) 天の神殿が大患難時代後半 3 年半の時に立ち入り禁止になる理由

#### 5.その後（のち）、私は見た。

この言い回しは黙示録に頻繁に出て来ますが、今までとは別のトピックスに話題を変える時の言葉です。なので、ここからは違う話をしています。

#### 5. 天にある、あかしの幕屋（まくや）である神殿が開かれた。

#### 6. そして七人の御使いが、七つの災害を携えて神殿から出て来た。彼らは、きよく光り輝く亜麻布（あまめの）を着て、胸には金の帯を締めていた。

先ほどは天にある賛美の光景でしたが、ここでは天にある神殿の光景を見たんです。

ところで、2017 年版では神殿と訳されていますが、前の第 3 版では聖所（せいじょ）と訳されていました。

これはギリシア語でナオス。“聖なるところ” という意味です。神殿全部 “聖なるところ” なんですけど。

神殿の前は幕屋というテントでした。幕屋は移動できる礼拝所ですが、神殿は石で造られたのでそこに安置されています。だけど、幕屋も神殿も基本的構造は一緒です。規模が違うだけ。

まず、神聖な区域を作ります。入口があって、まず祭壇（屠った動物を焼く場所）、次に洗盤（祭司たちが手足を洗う大きなボール）、次が 1 番重要な聖所(幕屋)で、2 つの区域があり、手前を聖所、奥を至聖所（しせいじょ）と言います。

#### 6.七人の御使いが、七つの災害を携えて神殿から出て来た。

出て来たのは入口からか、聖所からか、至聖所からか？ 結論を言うと至聖所です。

なぜそれが分かるかというと、7 つの災害を蓄えている鉢を 7 人の御使いに渡す当事者がいるんです。

#### 7. また、四つの生き物の一つが、七人の御使いたちに七つの金の鉢を渡したが、それには世々限りなく生きておられる神の憤りが満ちていた。

先ほどの 4:6 御座の前は、水晶に似た、ガラスの海のようなであった。そして、御座のあたり、御座の周りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

この四つの生き物は御座（玉座）にいたんです。つまり 1 番神聖な至聖所。

この至聖所は何をする所か？（神は）ユダヤ人たちが天国という目に見えない世界・天国の様子を具体的にリアルにイメージ出来るように、視聴覚教材として幕屋というテントを作らせたんですね。

出エジプト記とレビ記にそれが書いてあります。

話をまとめます。至聖所は 1 番神聖な 神が臨在される場所ですが、ここに年に 1 回だけ大祭司（まあ、ユダヤ人の神主のトップ）が入って、過去 1 年分の罪の償いと執り成しをします。

それが神に受け入れられたら、彼は生きて至聖所から出て来ることが出来ます。

その姿を見て「ああ、1 年分の罪は赦されたんだ」と皆ホッとするんです。

もし赦されない場合は、至聖所で神に打たれてバタッと死んでしまうかもしれない。

その場合、年に 1 回 大祭司しか入れないので、遺体をどうやって運び出したらいいでしょう？

紐 付いてるんです。大祭司の服に。で、鈴 付いてるんです。ざくろの形した。

普通の祭司たちは耳そばだてで聞いているでしょう。何時間経っても出て来ない。“これは打たれた！” という場合は、紐を引っ張ってズルズルズル、ということらしい。

至聖所は神が臨在される場所であると同時に、特別な執り成し手が罪の赦しを執り成すための場所。この至聖所から裁きを持って来た7人の御使いがいます。

8. 神殿は、神の栄光とその御力から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその神殿（至聖所）に入ることができなかった。

すなわち、執り成しのために誰もこの場所に立ち入ることが出来なかった。

罪があっても、執り成し手がいるなら思い止まっていただけかもしれません。

しかし患難時代後半、天の至聖所で執り成す者は誰もいなかった。それが出来ないように、立ち入り禁止にされたんです。

7つの裁きは もはや一刻も先延ばしされない。必ず実行される。文字通り実行されます。7つとも全部。それによって、神の聖さが明らかになると言うんですね。

今 中国が南シナ海を埋め立てて人工島を造って、その島を結んで九段線（きゅうだんせん）といって勝手に線を引っ張って、この島から200海里は全部中国の領海であるとやってる。

九段線の中にはフィリピン・マレーシア・ベトナム・ブルネイの領海が入っているんですね。

フィリピンの漁師が今まで通り魚を取っていると中国の海警（かいけい/海上保安庁）に脅されたり、フィリピンのEEZに200隻の中国籍漁船が居座ったまま出て行かない。そこでごっそり取っている。

それで、フィリピンは国際司法裁判所に訴えました。オランダのハーグに国際司法仲介裁判所があって、「中国がやっていることは国際法違反です」と15項目にわたって訴えたんです。

5年前の2016年、その裁判所が判決を下しました。15の訴状に対して、1つを除いて全部フィリピンの言い分の方が正しい。中国が現在やっていることは国際法違反であるとジャッジしたんです。

中国 どうしたと思いますか？ 人工島潰しましたか？ EEZから撤退しましたか？ 行動を改めましたか？

全く変わってないんですね。彼らの言い分は「だから、何なの？」

国際司法裁判所が「有罪！違法！国際法破ってる！」でも中国は「だから？」

実は、国際司法裁判所はどちらが不当かという裁定を下すことはできますが、その不正を正す強制力は持ってないんです。強制執行できる力がないので、紙切れだけの正義になるんですよ。

口だけ。言うだけ番長。役に立たない。

私は中学の時、実は生徒会の副会長をやっておりました。とっても楽しい中学時代。

中学3年生の時は受験とか色々言いますが、僕はもう楽しかったですねえ。

ところが3年生の時、おかしい遊びが流行ったんです。リンチゲームといって、校内の3人の不良が、ちょっと弱い友達を袋叩きにしたんですよ。袋叩きにされた人は今度4人になって、他の誰かを袋叩きできる。その袋叩きにされた人は5人のメンバーになって、また誰かを襲う。これをずーっと続けると、最終的に30人40人になるんです。めちゃくちゃ怖いですよ。先生方は知ってか知らずか、何にもしなかったんですよ。

ある時、わたくしの親友がやられたんですね。それでですね、ちょっとキレてしまいました。

まだクリスチャンじゃなかったんです。で、今でも覚えてますが、前日雨が降って、グラウンドに大きな水溜りが出来ててね…。昼休みに私は職員室に呼ばれて、そして、校庭を横切って自分の教室に入ろうとしたら、40人が待ち構えてるんですよ。

避けるには水溜りのど真ん中を突っ切って行ったらいいけど、むちゃくちゃ汚れるから、水溜りの縁に沿って歩くことになるじゃないですか。それでね、M君という不良とボンと肩が触れたみたいになって、気がついたら大喧嘩になってしまったんですね。その時、感謝なことに40人が参加しなかったんですよ。1対1。まあ柔道部でもあったし 極真空手やってましたので。

校舎が口の字型で真ん中がグラウンドなんですけど、終わってフッと顔を上げたら、1階から4階屋上までみんな見てる。ボクシングのタイトルマッチであるじゃないですか。ネバダ州の砂漠のね。あんな感じですよ。すぐに職員室に呼ばれて、その日5時間目と6時間目は授業中止。床に座らされて土下座してね。それが良い指導方法だったか分かりませんが、それで一旦終わったんです。

私がすごく尊敬している先生がいて、チャタニ ミノルという社会の先生。この先生のことを大好きでした。しかしこの事件の時、チャタニ先生は出張でおられなかったんです。翌日来られて、放課後 私は職員室に呼ばれました。「昨日、大変だったな」みたいな感じで。そして、1冊の文庫本を渡してくれたんです。パスカルの『パンセ』。これ、中学3年に渡す？ パスカルの『パンセ』。

葉が入っているのでパツと開けてみたら、赤鉛筆でシューツと線が引いてあった。"正義の無い力は無能。しかし、力の無い正義も無能。正義の無い力はただの暴力。でも、不正を改めさせる力が無い正義は言うだけ。無能。"

私にひと言もお説教しなかったんです。「君はどっちなのかな？」という そんな問いかけで。いやあ、良い教師でしたね。その先生を思い出すと「ああ、教師になりたい」と思って、それで、なれなかったんですけど。そういうオチがあるんですけど。なんか思い出しますねえ。

正義の無い力は無能。しかし、力の無い正義も無能。  
神が「反キリストは悪だ！」しかし、もし何もなさらなかつたら、そこで神の聖さは表されないんです。

神は正義であり力もある方なのに、なんで今日（こんにち）まで、誰が見ても分かるような神の裁きというものがなく保たれているのか？ それは、私たち人間にチャンスを与えておられるのです。神は全ての人が救われて真理を知るようになるのを望まれて、今 この世界を愛と忍耐のうちに保っておられる。それが聖書の神です。

しかし、患難時代の後半 最後は、もうこれ以上の“待った”がないんですね。私たちは、この時代に入って恐ろしい目に遭いながら信じる必要はないと思うのです。患難時代の前、この恵みの時代の今こそ、聖書のみことばの確かさに頼りながらキリストを受け入れることが、最も賢明なことではないかなと思うんですね。

いかがでしょうか。ぜひイエス・キリストを信じてください。心からお勧めします。



\*使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』

\*動画はYouTubeで「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

\*ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約15分)もぜひどうぞ。YouTubeもあります。

\*YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。

動画筆記：Rumi